

川崎・たのしい授業体験講座での分子模型づくり

2005. 1. 5 小樽分子模型の会 齋藤一郎

ichirokasetu@yahoo.co.jp <http://www17.plala.or.jp/ichirokasetu/>

パンフレットを見ると分子模型作りがないのですが…

7月の初めに「2004川崎・たのしい授業体験講座」の申し込みをしました。そして見本市の申し込みも行いました。でも、ちょっと引っかかっていたことがありました。それは300名もの参加者が集まる会なのに分子模型づくりが無かったことです。そこで会の主催者の横山さん（神奈川）に次のメールを送って、分子模型づくりをさせてもらえるようお願いしました。

先日、川崎の体験講座のを申し込みをしました。
パンフレットを見ると分子模型作りがないのですが、
どなたもやらないのでしょうか？
山田正男さんに聞いたら川崎には行かないとのことでした。
もし可能なら、齋藤が夜のサークルの時や
売り場で細々と行いたいのですが、いかがでしょうか？
ご検討ください。
配布用の資料を添付しようとしたのですが、
大きすぎてだめでした。
滋賀大会で配布するので見てほしいです。
室蘭の体験講座で配った資料を改訂しました。

横山さんから、サークルタイムでやっても良いことと、売り場でも行えそうなことを連絡してもらいました。

読み書き計算原子模型とコンピュータ

1日目の板倉先生の講演の中では、「読み書き計算原子模型とコンピュータ」についても話していたと思います。何年前にも『たの授』に「読み書き計算原子模型」が載ったことがありました。あの頃はなんとなく読んだ文章でしたが、今回、改めて聞くと、自分の関わっていく方向が見えたような気がしました。

たくさんの方々に分子模型をつくってもらいました

板倉講演と講座の紹介が終わってから体験講座は始まりました。いつもなら売り場からは参加者が消え、それぞれの目指す講座に参加するところですが、なぜか分子模型を作る人が最初からいました。理由を聞いたところ、体験講座の参加者が多すぎて、申し込みを受け付けてもらえなかったため、講演と売り場だけに参加が許されていたそうです。そのため、4人分の席を用意しましたが、ほとんど席が埋まっている状態でした。「初めての

分子模型づくり」を終えた人は自分で作りたい分子模型をどんどん作っていました。

また、夜のサークルタイムでは売り場の机をさらに4つ増やして、12人分のコーナーを作りました。サークルタイムの間もほとんど席は埋まったままでした。時間が短かったけど「初めての分子模型づくり」とダイオキシンのような簡単な分子模型を作ってくれました。

感想は書いてもらわなかったけど

体験講座では感想を書いてもらわなかったのですが、皆さんの評価が気になるのですが、「写真の資料は見やすい」など結構評判が良かったみたいです。会が終わってから横山さんに会の感想を送ったところ、次の返事が届きました。とても喜んでもらえてうれしかったです。

本格的な分子模型づくりのコーナーを設けてくださり、ありがとうございました。

すごいなあ………につきます。

サークルタイムにお部屋を提供できなかったこと、申し訳なく思っていたのですが、時間のかかる作業なので、売り場でじっくりやっていただいたのは結果的に正解だったかもしれません。

北海道で、そして、今回の川崎での斎藤さんの様子を拝見し、斎藤さんは本当に分子模型がすきなんだ、分子模型の普及の後押しをしていらっしゃるんだと感じ入りました。

価格設定が安すぎるのではないかと、という声もありました。私もそう思います。

価値に見合った値段になっていません。

あれでは送料などの経費が出ないのではと心配してしまいます。

一方で、惚れてることにトコトン貢ぐのもシアワセ、という心情もわかるんです。

他人の笑顔と自分の希望は、何にもました報酬ですもの。

今後も、「儲けの場」でなく、「科学教育普及のための教材見本市」であり続けたいです。ご協力、ありがとうございました。

川崎の会の後でホームページができました

川崎の会の前に滋賀で行われた仮説実験授業研究会の夏の大会で、竹田さん（愛知）に分子模型づくりの資料をお渡ししたら、次のメールをいただきました。

大会では資料をいただき、ありがとうございました。

やっと、今日になって資料を読み、とても感激しています。

なぜかという、斎藤さんの資料を読んで、私は生まれて始めて「私にもいろんな分子模型が作れそう」と思えてきたからです。

私も分子模型は作ったり、子どもにつくってもらったりします。

でも、もし原セットから、アルコールくらいまで。それ以上のものは難しそう。

めんどくさそう……ちょっと狂っただけでも駄目みたい。

などの理由でつくったことがありませんでした。

だから、アルコール以上の分子はみんな買った物か貰ったものです。

その私が、「作れそう」と思いました。

その大きなものは「写真」です。

多分写真がなかったら、いくら丁寧な説明を見ても、そうは思えなかったでしょう。

さらに、写真もカラーだったからよかったと思います。
これだけでも、メールするに値することですが、
以下についてはどう思われますか？
・・・っていうのは、こういう写真を気持ちのある人にはすぐ見ることができるようにすることについてです。（無料で）
そういうことはしない方がいいのか？
本ができるのを待ったほうがいいのか？よく分かりません。
それに、斉藤さんの資料には正男さんの成果がいっぱいに行っていると思われるので、その辺についてのこともよく分からないのですが、
HPを持っている私としては、ネットにのせれば、こういうきれいな写真も欲しい人には手に入るよねえ。そうしたらすごく便利だよねえ。などと思ってしまったのです。
でも、それが誰かの不利益になってはいけませんよね。
著作権の問題もありますよね。
だから、特にすごく「そうしようよ」というわけではないのだけど、斉藤さんの資料に感激し、こういうきれいな写真がみんなの手元にいつでもほしいときに届くようにするには、ネットという手段は素晴らしいなあと思ったのですが、いかがでしょうか？

このメールの後、正男さんに掲載の許可をもらい、川崎の会の後に小樽分子模型の会のHPができたのでした。なかなかたのしく忙しい夏休みでした。